

【教育目標】

【知】自ら学び、考え、進んで行動する人

【徳】互いを尊重し、協力する人

【体】心身ともにたくましく健康な人

杉並区立中瀬中学校

下井草4-3-29 TEL 3399-2196

## 「授業」から「学び」へ ～学びの構造転換～

体育大会・音楽発表会の取組に続き、生徒会役員会を中心に『自分たちの学校を、自分たちで作る、土台プロジェクト』の取組が始まり、12月3日（木）には役員会の提案を受け、学年を超えてのグループワークが体育館で行われました（その様子は次号で紹介します）。

この様な「生徒に～させる学校」から「生徒が～する学校」への離陸は生徒たちだけでなく教員も取り組みます。学校アンケートの“コロナ禍で取り組んで良かった事”という問いに、「自学自習を徹底できた。」「課題（やらなくても良い）に取り組んだら良い復習になった。」「6教室に分散した時の自習時間は、とても効果があった。」「11の教え合い、助け合いが良かった。」などと答えている生徒が、3年生を中心に結構いました。

困難な状況でしたが、生徒たちは先生（学校だけでなく）に教えてもらわなくても、学びを進めていたのです。「自習時間があつた時の方が生徒たちは勉強していた。」というベテラン教員の声もありました。

中瀬中ではこれから、教員全員が自分の授業をタブレットで録画し、「生徒の学ぶ力を活かしているか、学びを邪魔していないか」という観点で研修を進め、「生徒に勉強をさせる学校」から「生徒が学び探求する学校」へ離陸していきます。

## 学校がある意味 II ～深い学び～

『深い学び』を成り立たせる3つ目のポイント（2つは前号の「学校がある意味」）が音楽発表会の生徒たちの作文から読み取れます。1年生の中心になったメンバーが「実行委員だから、パートリーダーだからと気負えば気負うほど、仲間に呼びかけても協力が得られず悩んだ」ことが書かれています。（上級生になるつれ、同様な内容は減り、3年生ではほとんどありません）

3つ目のキーワードは『対等』です。以下の3つの文について皆さんはどう思いますか？

「合唱コンクール（運動会）では、歌（運動）が得意な人がリーダーとして不得意な人に教える」

「合唱（〃）の練習に一生懸命取り組むのは当たり前で、取り組まないのはおかしい」

「歌う（運動する）のが得意な人は優秀な人で、できないのはダメな人」

それは違うといつという人もいるでしょうが、「合唱コン・歌」を「授業・勉強」に置き換えると、そう考えていたという人も（教員も含め）少なくないと思います。

大切なのは『対等』です。対等だからこそ『対話』～仲間とのぶつかり合い、励まし合い～が生まれ、皆で『深い学び』に向かえます。

「なんでみんな一生懸命取り組まないんだ」と怒るのではなく、「できる人が教えてあげる（ミ二先生）」のではなく、得意・不得意に関わらず、チャレンジする姿が周囲を勇気づけ、「できる（わきたい）から、安心してアドバイスを求め、応援し合う仲間となっていく」のです。（中瀬中の体育の『12分間走』がその例です。）

そんな取組を音楽発表会で行った3年生の思いを紹介していきます。（校長 香西 雅斗）

# 音楽発表会 ～三年生の思い～

僕は、とてつもない責任を感じていました。3年の音発で指揮をやっているからだ。ただリズムを合わせればいいというものではなく、その曲を豊かに表現し、仲間をリードしなければならぬ。...

自分が指揮するのは『大地讃頌』：雄大な大地への感謝を、自分らしくありのままに指揮をした。記号や響かせ方、音程など、様々なことを教え合った。

そして本番、三年生として後輩に良い姿が見せられるよう全力で挑んだ。足が震えるほどだったが、みんなが緊張しないよう笑顔で振った。

自由曲の『走る川』、皆で話していた音や強弱をしっかりと意識して歌った。全て出し尽くした、終わった時に自信をもってそう言えた。：3A 大東 直諒

正直、朝練は眠くて、退屈で嫌な事だらけだった。しかし一つだけ楽しいことがあった。それは皆でそろって歌うことだった。

初めの体育館練習はひどいものだった。その日から鬼の様な練習が始まった。

先生が命令してやるのではなく、実行委員の齋藤君と仁神さんが中心となり「今、自分たちに何が足りないか」を考え練習した。：約二週間後、皆で歌った歌は、何十倍も良くなっていた。

結果は優秀賞。でも伊藤先生は、自分の中では最優秀賞だと言っていた。僕もそう思う。なぜなら、クラスの皆が全力を出し切ったからだ。

皆が練習した証は絶対消えない！

3B 丸尾 幸裕

## 「今の行動が今後を決める」

正直、こんな短期間で美しいハーモニーを作り上げるのは難しいと思っていた。そもそも歌詞すらも覚えていない。でもそんな中、校長先生に「全ての行事は三年生のため」と言われた。

その言葉を聞き、私は三年生が全力をだし、一・二年生を引っ張っていいことと思つた。そして私の心に一気に火が付き、短期間でもその期間でできる努力をしようと思つた。：この切り替えた気持ちによって、成長していったと思う。

そしてクラスメイトも徐々に変化し、合唱に一体感が生まれ、当日も素敵な歌を響かせられたと思う。：三年生のどのクラスの合唱も完成度が高く感動した。：コロナ禍だからこそ一回一回の練習、時間の大切さを感じた音発だった。：3C 垣花 音乃夏

初めて自由曲「言葉にすれば」のアルトを聞いた時は、難しくてびっくりした。最初はCDがないと歌えなかったのに、ソプラノと合わせて歌えるようになった。男子の声も出てきて、テノールは皆に見守られながら音取りを繰り返し、高い音が出るようになった。：朝練は大変だったけど本当に楽しくて、朝練の最後の方で、男子が歌っているところに女子が被せて歌う時間は、本当に暖かくて幸せでした。

皆の音が合った時嬉しかった。アカペラが上手に歌えて嬉しかった。最後の音発をこのクラスで迎えられる嬉しかった。実行委員、指揮者、伴奏者、先生方そして3Dの皆のおかげで、大切に特別な音発になりました。3D 岡野 心桜



＜ 3年生合同合唱「大地讃頌」＞

3B、3Cが午前の部後半に公会堂に入場し、3年生は全クラス揃って『大地讃頌』を披露しました。また午後の部の前半にも二回目の合同合唱を行い、3年生は全クラスお互いの合唱を聞き合うことができました。

私は人と接することが苦手で、普段も行事も一人でいるのが当たり前と思っていました。だけど今回は皆とアドバイスし合いながら練習している自分がいました。

「こっぴつプレス記号がないから息継ぎしちゃうじゃない？」「この歌いだしをもう少し早くした方が良いと思う！」とパート練習の時言つと「そうだね」「私もそう思った」と賛成してくれ、とても嬉しかったです。

全部一人で終わらせるのではなく、大事な仲間の存在を忘れずに過さず、皆で一つの事に向かって努力することが本場の努力だと思いました。

それは最近始まった十二分間走や受験も同じで、皆で応援し合いながら走る、問題を教え合い励まし合うことが大切だと思いました。3A 中山 凜

音程が分からなくて困っていた私に、友達は優しく丁寧に教えてくれました。同じパートの人と何度も練習し、分らない時は教え合うことで、歌えるようになっていきました。...

その後、歌を聞き合い、アドバイスし合いました。伴奏者と指揮者がとてもうまくて、皆で合わせた時に声が響きあって、3年B組の、優しくて、明るくて、柔らかな歌声に包まれました。

本番、皆の音が良く聞こえ、自分の声も聞こえた時に、クラスの皆で一つの曲を創り出しているなと実感しました。その時、私は何にも例えられない達成感と楽しさ、嬉しさが入り混じった感動を味わいました。3B 柴田 門

練習で誰かがミスしても、誰も責めなかった。：みんな、実行委員やパートリーダーの言う事を素直に聞いて、すごく真剣に取り組んでいた。

二年生の時は、人のミスを責めたり、練習にまともに取り組まず、案の定、最下位でみんなギスギスしていた。そんな経験があったので、最初の練習の時はドキドキしていた。しかしそんな心配は全くいらなかった。

僕たちは、人のアドバイスを素直に聞き、誰かのミスを責めないことで成長し、絆がより一層深まったことを実感した。3C 木崎 多次郎

：中一の時の僕は、朝練を眠いからと言ってサボリ、得意でないという理由でやる気を出さずにいた。本番はもちろん楽しくなく、面倒くさいとまで思っていた。

：音発の二週間前、二年前の僕の様子は3Dだけでなくここにもいなかった。むしろ、皆の顔はとても真剣だった。

一生懸命練習するクラスの皆を裏切ることはできない。自分もみんなと頑張ることができた。

：本番、一年、二年、三年の合唱、三年間で最後の合唱部の発表、吹奏楽部の演奏、みんな輝いて見えた。いや、輝いていた。全力で頑張る、みんなと作り上げた音楽発表会だからこそ、輝いていた。

：コロナのために音楽発表会が変わっていたのではなく、音楽発表会が僕を変えてくれたのだと思う。みんなに感謝、本当に最高の音楽発表会になりました。

3D 後藤 慈元

：私は伴奏者として、クラスの合唱が良く聞こえるように色々な工夫をしました。中でも指揮者と合わせるのがとても難しく苦労しましたが、何度も練習に付き合ってくれて、だんだん合う様になりました。

なかなか上手に弾けず悩んだこともあったけど、クラスの皆の頑張る姿や応援の声に救われ、乗り越えることができました。

はじめは、伴奏者は一人で頑張るものだと思っていたけど、皆からの力でこんなに頑張れるということに気付き、改めて仲間の大切さ、有難さを感じました。...

3A 井上 未梨

：本番、まず他クラスの演奏を聞く。どのクラスも上達している。とても緊張していたが、どこかでワクワク感もあった。

：舞台上に立った瞬間、自分の心臓の音が聞こえた。響く美しい伴奏、そして皆の力強い歌声。歌い終わった。僕の体を達成感が包み込んだ。

賞は取れなかったが、そういうのは関係ないと思う。音楽発表会は順位を争うが、真の目的は、仲間と一緒に歌い、団結力を高めることだと思う。...

3C 木内 陽斗

：朝練よりも放課後、昨日よりも今日、さっきよりも今。自分も歌っているのに、合唱が上達しているのがこんなに感じられるのは初めてだった。

：パトリダーとしてしっかり指示ができていたのか不安だった。でも皆、焦っているはずなのに「大丈夫だよ！」と言ってくれた。余裕がないのに、こんなに居心地がいいと思えて、すごく幸せな二週間だった。...

3D 齊藤 彩乃



< 合唱部 一曲目の指揮は山根先生 >

：この音楽発表会で一人一人の思いが一つになって合唱になる」ということが少し分かった気がします。

皆のことは正直まだ良く分からないけれど、一つの目標に向かって歌っていた気がします。...

3B 中原 彩誉

：自由曲は「走る川」。正直最初は魅力を感じなかった。ただ川について歌った曲、それだけと思っていた。

指揮を練習しようとして、一昨年のDVDを見て血の気が引いた。目を疑うほど速く、複雑なのだ。：早速曲を音楽プレーヤーに入れ、楽譜にとらめつこた。軽く手を振り、体に動きと曲を染み込ませる。疲れるとただ曲を聞く。歌詞をじっくり聞いたのは、あの時が最初だった。

不思議なことに「川」が目の前に少しづつ見えてくる。流れの速い所、遅い所、澄んでいる所、濁っている所。そして色々なものを通り過ぎ、最後は海に出る。

クラスの誰かが言っていた。「人生は雄大な川である」と。すごくきれいに腑に落ちた。指揮する上で軸となるものが、あの時決まった様に思う。

：翌日に本番を控えた日の夜、イヤホンを耳にさし手を動かしながら楽譜を眺めていた。何度も聞いた曲が、いつもと違った。川ではなく、今までの皆との練習が頭に現れてくるのだ。実行委員の怒鳴り声。顔を真っ赤にして笑う男子。歌いすぎてクラクラしている女子。そして指揮から見える真剣な表情。

この時僕は決めた。明日は皆のために歌い、指揮を振ろうと。皆に寄り添って指揮を振ろうと。前日の最後の悪あがきで、歌詞に合わせて指揮を振るようにならざるを得ない。：そして本番、3Aは会場に雄大な大地と川を見せて帰ってくるのだった。

：指揮者賞は、音発前夜に皆のあの表情が頭をよぎったからだ。それも含め、色々な事に気が付かせてくれた皆に、心からありがとうを言いたい。...

3A 金澤 侑生

：伴奏と指揮が声を引っ張るのも、伴奏が声についていくのでもなく、指揮と伴奏と声が一つになつて一つのものをつくることのできたと思う。

だからこそ「伴奏を失敗してはいけない」という思いが「不安」に繋がらず、「緊張」と「楽しみ」に変わり、安心して音発を迎えられたのだと思う。

3B 中原 涼帆

：昨年の三年生を見ていて「何で賞を取れなくても、こんなに楽しそうなんだろう」と思っていた。悔いがなく、やり切ったという気持ちで表れていた。

：今年、自分なりに「勝つこと」の先にあるものを見つけたと思う。：準備期間にあったたくさんの思い出。音発を心から楽しめたことで生まれる団結、友情など。私は、三年生になって見つけることができたが、後輩たちには、もっと早くに見つけて、中瀬の合唱をどんどんレベルアップさせてほしい。

3C 山口 華音



< 新島 樹 実行委員長 3C >

：学年合唱が終わり、皆が退場して行くと緊張はほとんど高まっていった。：歌い始めると足もガクガクして、声も震えていた。いつもより声も小さかった気がする。それでもクラス仲間と歌っている、きつと大丈夫と思ひ、段々いつもの様に歌えるようになっていった。最後には楽しいと思ひながら歌うことができた。3年D組にしか作れない、3年D組だけの合唱ができたと思ふ。

：賞は取れなかった。他のクラスも素晴らしかったのだけれど、しゃべり悔しかった。それくらい全力でやっていたのだ。

：私たちにとって大きな行事は最後になる。これからは一人一人の目標に向かわなければならぬ。孤独や辛さを感じることもあるだろう。クラス仲間をイライラすることももあるかもしれない。それでもこの音発で芽生えた絆を見失わないようにしたい。

「心に一つ約束があればいい」そんな気持ちを抱えながら、皆で支え合い、皆で乗り越え、皆で笑い合つて、次のステップへ飛び立っていかたいいなと思ふ。

3D 三田 怜奈

指揮者・伴奏者・パートリーダー・実行委員など軸になるメンバーが、自分の力が足りていないことに不安を抱えながらも、役割を全うしようと思ひを尽くしていたこと、そして周囲のメンバーも、対等な関係の中で、軸となる人たちに声をかけ励ましていたことが伝わってきます。

その積み重ねが「居心地がいい」「暖かく幸せな」時間と空間となり絆を育み、様々な気付きや学びを生み、団結力や友情に繋がり、メンバーを成長させたのです。

紹介したい3年生の思ひはまだまだあるのですが、コンクールが中止になり今回がメインの発表の場となった吹奏楽部員の文で、音楽発表会の紹介をしめます。

< 吹奏楽部 アンコール >



：三年生とできる最後の演奏。一生懸命練習した。当日、先輩からもらった楽譜にかける厚紙。その裏には先輩からのコメントが書いてあった。それを読んだら涙が出そうになった。今日の演奏で最後だとは思えなかったし、。思いたくなかった。舞台上立ち、演奏を始めた。思いつきり楽しもう、と思つた。

演奏が終わつた。この瞬間が嫌だと思つた。もっと先輩と演奏したかった。：。そう思つたけれど、悔いはなかつた。楽しかつた。：

1C 佐藤 小桜

私が一番緊張した演目は、吹奏楽部の発表です。：本番、譜面台に付ける「NW〇」の裏に、先輩からのメッセージがありました。そこには、「教えきれないこともたくさんあるし、もっと話して仲良くなりたかつた。少し残念でもあります。」

などたくさんさんのメッセージが書いてありました。それを見た瞬間にうろつき、絶対に悔いの残らないよう吹こうと決意しました。：スタンバイしている時、私は緊張で手が震えていました。でも、今までの練習があるから大丈夫、そう心に言つて、ステージに上がりました。：1D 加藤 蘭夏

三月、先輩の最後の舞台が無くなつた。私たちも、とてもやり切れない思ひをした。そして7月、目標としてきたコンクールの中止が決まつた。言葉にできないほど悔しかつた。

しかし、トレーナー長という重要な役職の私は、落ち込んではいられなかつた。無いかもしれない音発に向けての練習が始まつた。でも、新一年生の基礎作りもままならず、私も塾で早退することが多かつた。

：本番一週間前、同学年全員に、「三年生になって初めて最後の舞台。心の底から楽しもう。」と手紙を書いた。書いていて部活の引退が迫っていることを実感した。

：当日、舞台裏で同じパートの子と話していると、泣いてしまつた後輩がいた。とても愛を感じて私も少し泣いてしまつた。：いよいよ本当に最後の舞台。最初にソロを吹いた子に、三年生が名前を呼んでくれた。：今年にはできないと思つていた呼び声、胸がいっぱいになつた。

：舞台の後、三年生全員と話した。皆、楽しかつたと言つた。行事や目標が無くなり、思う様にいかないことがほとんどだつた半年間。：でも私の吹奏楽部引退は『最初で最後で最高』であつた。3A 上野 結衣

：演奏が終わつた後に、二年生の後輩たちが泣きながら「先輩と吹けなくなるの嫌です。もっと一緒に吹きたかつた。」

と言つてきて、思わずもらい泣きしてしまつた。本当にいい後輩たちに恵まれたなと思ひました。

やはり今回の音発は、一生の思ひ出に残ると思ひました。最高の音楽発表会を作る機会を与えてくれた先生方、クラスの人たち、吹部の皆に感謝の気持ちを伝えます。

3C 平井 瑚々花

吹奏楽部だけでなく、中瀬中の1・2年生たちは、3年生の思ひを確かに受け止めました。

『3年生になるのは簡単だが、3年生であり続けるのは簡単ではない』

1・2年生は、後輩のため、中瀬中のため、後姿で語れる3年生を目指してください。

そして3年生は、バトンを渡す卒業の日まで、後輩に追いかける存在であってください。

本当に良い音楽発表会でした。